

答え合わせ・解説 No.2

問1	答え 1 安重根	日露戦争後の1905年、第二次日韓協約（日韓保護条約）によって大韓帝国は日本の保護国となり、漢城（ソウル）に統監府が置かれた。初代統監には伊藤博文が就任したが、韓国国内では激しい反日義兵闘争が展開された。1909年10月、統監を辞任してロシア大蔵大臣ニコラエフと会談するために満洲のハルビン駅に到着した伊藤博文は、韓国の民族運動家である安重根によって射殺された。この事件は、翌1910年の韓国併合を加速させる契機となった。
問2	答え 2 1946年の衆議院議員総選挙	1945年12月の衆議院議員選挙法改正により、満20歳以上の男女に選挙権が、満25歳以上の男女に被選挙権が与えられた。これに基づき、翌1946年4月に戦後初の衆議院議員総選挙が実施され、39名の女性代議士が誕生した。なお、男子普通選挙が実現したのは大正デモクラシー期の1925年（普通選挙法）である。
問3	答え 1 中里介山	第一次世界大戦後の都市化と、円本や週刊誌などの出版ジャーナリズムの発達を背景に、大衆文学（大衆小説）と呼ばれる新しい文学ジャンルが成立した。その先駆となったのが、1913年から新聞連載が始まった長編小説『大菩薩峠』であり、その著者は中里介山である。
問4	答え 3 民主社会党	1950年代半ばに成立した55年体制のもとで、1960年の安保闘争を契機に日本社会党内で路線対立が激化し、西尾末広ら右派グループが離脱して民主社会党（のちの民社党）を結成した。これにより、それまでの自民党と社会党による事実上の二大政党対立から、野党が細分化・多様化する「野党の多党化」の時代へと移行することになった。
問5	答え 4 お雇い外国人	明治政府は「富国強兵」や「殖産興業」を推進するため、欧米から優れた技術や知識を持つ専門家を多数招いた。彼らは官庁や学校、工場などで技術指導や法制度の整備、教育活動に従事し、日本の近代化に大きく貢献した。
問6	答え 3 MSA協定	1954年に調印された日米相互防衛援助協定（MSA協定）は、アメリカからの援助と引き換えに、日本に対して自衛力の漸増義務を課した。これにより、保安隊が自衛隊へと改組されるなど、日本の防衛力強化が進められた。
問7	答え 3 原敬	米騒動の責任をとって退陣した寺内正毅内閣の後をうけ、立憲政友会総裁として内閣を組織した。陸相・海相・外相以外の閣僚をすべて政友会会員から起用し、本格的な政党内閣を樹立したことで「平民宰相」と親しまれた。
問8	答え 1 円本	第一次世界大戦後の大衆社会化に伴い、1926年に改造社が刊行した『現代日本文学全集』を皮切りに、1冊1円という低価格の全集本が各社から相次いで出版され、爆発的なブームとなりました。これを円本と呼び、それまで知識階級のものだった読書習慣が広く一般大衆にまで普及する契機となりました。
問9	答え 2 満洲国	1931年の満洲事変を経て、日本は1932年に中国東北部に満洲国を建国した。日中戦争から太平洋戦争期にかけて、日本とその勢力圏内の国々が参加する「東亜競技大会」などのスポーツイベントが開催され、満洲国からも選手が派遣された。これらのイベントは、対外的な宣伝や「大東亜共栄圏」の結束をアピールするために政治的に利用された。
問10	答え 2 鹿鳴館	条約改正の実現を目指した外務大臣の井上馨は、欧化主義政策の一環として、イギリス人建築家ジョサイア・コンドルの設計による社交場を建設した。1889年の大日本帝国憲法発布式典における西洋風の儀礼服の着用も、こうした欧化政策の影響を強く受けたものである。この建物は鹿鳴館と呼ばれ、華やかな舞踏会などが催されたが、のちに条約改正交渉の失敗や国内の批判により、欧化政策とともに衰退した。
問11	答え 1 廃刀令	明治政府は1876年に廃刀令を布告し、軍人や警察官以外の帯刀を禁止した。これに激しく反発した熊本の士族（敬神党）が同年に拳兵した（敬神党の乱）。この反乱は、同年に起きた秋月の乱や萩の乱といった士族反乱の連鎖を引き起こす契機となった。